

2023年9月改訂

貯法 2～8℃

PCVID-4

動物用医薬品

承認指令書番号 4動薬第3180号

動物用生物学的製剤

劇薬 要指示医薬品 指定医薬品

ポーシリス[®] PCV IDAL

名称：豚サーコウイルス（2型・組換え型）感染症（酢酸トコフェロール・油性アジュバント加）不活化ワクチン（シード）（皮内接種用）

【本質の説明又は製造方法】

このワクチンは、豚サーコウイルス2型オープンリーディングフレーム2遺伝子組換えバキュロウイルスBacPCV2-Orf2；98-99株（シード）をSpodoptera frugiperda細胞で増殖させ不活化したのち、アジュバントとして軽質流動パラフィン及びトコフェロール酢酸エステルを加えたものである。

【成分及び分量】

小分製品 0.2mL（1頭分）中

	成分	分量
主 剤	Spodoptera frugiperda 細胞培養豚サーコウイルス2型オープンリーディングフレーム2遺伝子組換えバキュロウイルスBacPCV2-Orf2;98-99株（シード）不活化液	2000単位 （ELISA抗原価）
アジュバント	トコフェロール酢酸エステル	0.6mg
アジュバント	軽質流動パラフィン	8.3mg
乳 化 剤	ポリソルベート80	0.6mg
消 泡 剤	シメチコン	0.4μg
緩 衝 剤	塩化ナトリウム	1.1mg
緩 衝 剤	塩化カリウム	0.03mg
緩 衝 剤	リン酸水素二ナトリウム二水和物	0.2mg
緩 衝 剤	リン酸二水素カリウム	0.03mg
溶 剤	注射用水	残量

【効能又は効果】

豚サーコウイルス2型感染に起因する死亡豚及び発育不良豚の発生率の低減、増体重低下の軽減、ウイルス血症発生率及びウイルス排泄量の低減

【用法及び用量】

3週齢以上の豚の頸部又は背部の皮内に専用の針なし連続注射器を用いて0.2mLを1回注射する。針なし連続注射器には、針なし連続注射器IDAL（承認番号：農林水産省指令19動薬第2526号）又は針なし連続注射器IDAL TWIN（承認番号：農林水産省指令3動薬第816号）を使用する。

【使用上の注意】

（基本的事項）

1. 守らなければならないこと

（一般的注意）

- 本剤は、要指示医薬品であるので獣医師等の処方箋・指示により使用すること。
- 本剤は、効能・効果において定められた目的にのみ使用すること。
- 本剤は、定められた用法・用量を厳守すること。

（取扱い及び廃棄のための注意）

- 外観又は内容に異常を認めたものは使用しないこと。
- 使用期限が過ぎたものは使用しないこと。
- 本剤には他の薬剤（ワクチン）を加えて使用しないこと。
- あらかじめ室温に戻してから、十分に振り混ぜて使用すること。

- 小児の手の届かないところに保管すること。
- 直射日光、加温及び凍結は品質に影響を与えるので、避けること。
- ワクチン容器のゴム栓は消毒し、無菌的に取り扱うこと。
- 使い残りのワクチンは紙等で吸い取り可燃物として処分し、また、容器は地方公共団体条例等に従い処分すること。

2. 使用に際して気を付けること

（使用者に対する注意）

- 誤って人に注射した場合は、患部の消毒等適切な処置をとること。誤って注射された者は、必要があれば医師の診察を受けること。その際、動物用油性アジュバント加ワクチンを誤って注射されたことを医師に告げるとともに本使用説明書を医師に示すこと。

本ワクチン成分の特徴

微生物名	抗原		アジュバント	
	人獣共通感染症の 当否	微生物の 生・死	有 無	種 類
豚サーコウイルス2型 オープンリーディング フレーム2遺伝子組 換えバキュロウイルス	否	死	有	トコフェロール 酢酸エステル 軽質流動パラ フィン

本ワクチン株は、不活化されており感染性はない。

- 事故防止のため、作業時には防護メガネ、マスク、手袋等を着用すること。
- 作業後は、石けん等で手をよく洗うこと。
- 本剤を人の手指に誤って注射した場合、疼痛、腫脹又は浮腫が認められている。
- 開封時にアルミキャップの切断面で手指を切るおそれがあるので注意すること。

（豚に関する注意）

- 本剤の投与前には健康状態について検査し、重大な異常（重篤な疾病）を認めた場合は投与しないこと。
- 本剤の投与後、激しい運動は避けること。
- 副反応が認められた場合には、速やかに獣医師の診察を受けること。

（取扱いに関する注意）

- 開封後は速やかに使用すること。
- 注射部位を厳守すること。
- 注射器は専用の針なし注射器を使用すること。

（専門的事項）

① 警告

対照豚が、次のいずれかに該当すると認めた場合には注射しないこと。

- 重篤な疾病を認めたもの。
- 妊娠中の豚。

② 対象動物の使用制限等

対象豚が、次のいずれかに該当すると認められる場合は、本剤の有効

性及び安全性を十分に勘案した上で、投与の可否を慎重に判断すること。

- ・発熱、咳、下痢、重度の皮膚疾患など臨床異常が認められるもの。
- ・疾病の治療を継続中のもの又は治癒後間がないもの。
- ・明らかな栄養障害があるもの。
- ・他のワクチン投与や移動後間がないもの。

③副反応

- ・注射部位に腫脹、硬結、紅斑、熱感等がみられることがある。これらの症状は、注射直後と注射後2週前後にかけて二峰性のピークを示すことがあるが、通常、注射後5～6週以内に消失する。

④相互作用

- ・3週齢以上の豚の頸部又は背部の皮内に3cm 以上の間隔をあけてポーシリスM Hyo IDALと同時に注射したときの有効性及び安全性は確認されている。
- ・ポーシリスM Hyo IDAL と同時に注射して国内で実施した臨床試験では、それぞれの注射部位に、大きいもので直径3.5cm程度の接種反応がみられた。また、一部の豚において、接種反応が小さくなった後に、再び大きくなる二峰性の接種反応がみられたが、接種反応は注射後6週以内に消失した。

【製品情報お問い合わせ先】

MSD アニマルヘルス株式会社

〒102-8667 東京都千代田区九段北一丁目13番12号

T E L : 03-6272-1099

F A X : 03-6238-9080

製造販売元(輸入)

MSDアニマルヘルス株式会社
東京都千代田区九段北一丁目13番12号



MSD

Animal Health

獣医師、薬剤師等の医薬関係者は、本剤による副作用などによると疑われる疾病、障害若しくは死亡の発生又は本剤の使用によるものと疑われる感染症の発生に関する事項を知った場合において、保健衛生上の危害の発生又は拡大を防止するため必要があると認めるときは、上記【製品情報お問い合わせ先】に連絡するとともに、農林水産省動物医薬品検査所(<http://www.maff.go.jp/nval/iyakutou/fukusayo/sousa/index.html>)にも報告をお願いします。